



## 浦和区

### ● 特 性 ●

浦和区は、中山道浦和宿が置かれたことを契機に急速な発展をはじめ、明治初期には県庁が設置され、埼玉県の行政の中心地としての役割を担うようになりました。市役所をはじめ県などの官公庁や文化・教育施設が数多いことから、歴史のある文教地区としてのイメージが定着しています。

## 都市基盤・環境

区内には、南北方向に国道17号や旧中山道、産業道路が、東西方向には国道463号や田島大牧線が伸びて、道路体系の骨格を形成しています。また、JR線の3駅（浦和駅、北浦和駅、与野駅）があり、なかでも浦和駅周辺は商業・業務機能や行政機能が集積する本市の都心として、市の発展の一翼を担っています。大きく見ると、JR線沿線を境に西側にはオフィス街が、東側は緑の多い住宅街が広がり、にぎわいと潤いが共存するという特性を有しています。

長い歴史の中で発展してきたことから、道路などの都市基盤\*や公共交通機関、身近な公共施設の整備は比較的進んでおり、生活利便性の高い地区となっています。一方で、都市化による交通混雑の解消や歩行者の安全確保など道路交通環境の向上、増加する中高層住宅と近隣の生活環境との調和といった課題も生じており、その対応が必要となっています。また、市内では極めて人口密度の高い区の一つであることから、身近な緑や都市空間のゆとりの創出など、生活環境の質的な向上にも取り組む必要があります。

## 産業

浦和駅周辺地区には大型商業施設や金融機関などが多く集まり、大宮駅周辺地区とともに本市における商業・サービス業の中心となっています。近年、駅周辺のさらなる機能の向上に向けた浦和駅東口駅前地区市街地再開発事業\*、鉄道高架化事業が進展し、東西市街地の一体化と新たなにぎわいの創出が期待されています。また、北浦和駅や与野駅周辺にも、商業や各種のサービス業が集積したにぎわいのある地区が形成されています。

しかし、従来からの商店街の一部では時代の変革に伴い活気が失われているところも見られ、その活性化が望まれています。

## 地域資源

浦和区は古くから発展したまちで、その歴史は旧中山道周辺の街並みや神社仏閣、史跡や天然記念物等の文化財、古くから伝わる祭りなどから読み取ることができます。また、美術館や図書館、科学館、スポーツ施設、高等学校なども多く、教育・文化に関わる資源に恵まれていることが特徴です。

浦和区は埼玉サッカー発祥の地でもあり、浦和駒場スタジアム（駒場運動公園競技場）が整備されており、街はサッカーを愛するファンでにぎわいを見せています。また、国際交流基金「日本語国際センター」が設置されていることを活用するなど、国際交流の機会を創出していくことが期待されています。



女子サッカー教室

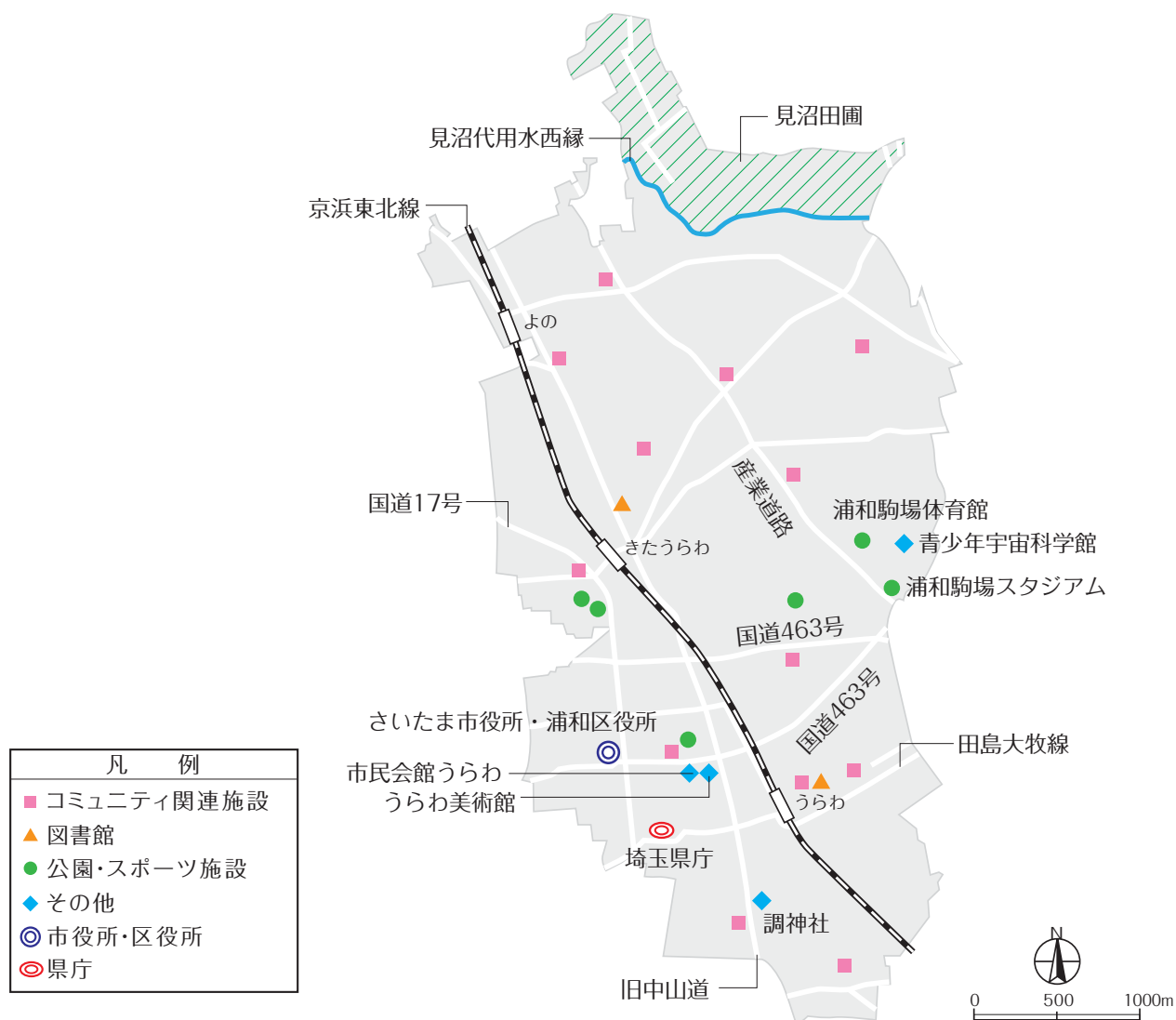


うらわ美術館

## コミュニティ

浦和区では、自治会が中心となって地域コミュニティ\*活動や行事などを活発に行っており、ボランティア団体やNPO\*、市民活動ネットワークなどによる自発的な活動も盛んです。住民の流入が多いため、新たな住民が地域に溶け込み、共に参加できるよう、区内12の公民館や浦和コミュニティセンターなどの恵まれたコミュニティ関連施設を活用しながら多彩なコミュニティ活動の振興を図り、区民間の交流を深めていく必要があります。

また、市内では単身高齢者世帯の割合が高い区の一つとなっており、地域の見守りを強化し、支え合いのネットワークづくりに取り組む必要があります。



浦和区  
の  
将来像

# にぎわいと文教の調和する 緑豊かなまち

一ワクワク浦和区、わたしの明日をつくるまち、  
わたしが明日をつくるまち—

浦和宿に代表される歴史と文化を伝える文教都市・浦和区は、都心としてにぎわいのある地区と、緑豊かな落ち着いた住環境の地区の2つが共存しています。この特性を踏まえ、住みたいまち、行ってみたいと思えるまちとしての魅力を一層高めるため、地域に住む人々の参加と協働を基本に、浦和区の歴史、文化、環境の資産を生かしたまちづくりを進めます。

## まちづくりのポイント

### 1 世代や文化、地域を超えた多様な交流のあるコミュニティづくり

- 身近な地域での交流や活動の活発化によるコミュニティ意識の醸成
- 地域住民が交流し、地域をより深く知り、考える場や機会の積極的な創出
- 地域住民と行政の協働を実現するための環境の整備
- 世代や文化、居住する地域など様々な差異を超えて人々がふれあい、誰もが楽しく活動し、人々の理解と共感が広がるまちづくりの推進



十二日まち

## 2 文教都市などの「浦和ブランド」を活用した魅力あるまちづくり

- 子どもたちの夢と希望をはぐくむ、地域に密着した教育の推進
- 生涯を通じた学びの場と機会の拡充
- 恵まれた伝統ある教育・文化・スポーツ資源を活用した、芸術・文化活動の振興
- 旧中山道や神社仏閣が伝える歴史、サッカーやうなぎのまちとしての特性などを生かした区の魅力の向上と情報発信力の強化



浦和駒場スタジアム



浦和のうなぎ

## 3 東西が連携し、一体性と「にぎわい」のあるまちづくり

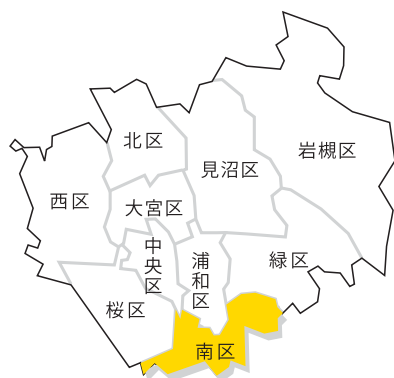
- 鉄道を挟んだ東西連携による一体的なまちづくり
- 駅周辺などにぎわいの拠点や商店街の持つそれぞれの魅力を再発見、活用した、誰もが訪れやすい活気のあるまちの再生と創出

## 4 ひとにやさしい誰もが安心して暮らせるまちづくり

- 交通事故、犯罪などの危険や騒音のない、誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進
- 災害に強く、安全、快適な都市空間の創出
- 誰もが安心して移動できる環境の整備
- 仕事と介護や子育ての両立支援を含む、高齢者や障害者、子育てに対する総合的な支援体制の充実
- 高齢者や障害者の自立と支援、子育てなどを互いに助け合い、誰もが元気に活動できる地域づくり

## 5 緑豊かな美しい街並みとゆとりある住環境を創出するまちづくり

- 中高層住宅と周辺環境とが調和した、ゆとりと潤いのある住環境の維持・創出
- 緑豊かな美しい街並みづくりなど、地域の環境向上に向けた住民参加による取組の推進



## 南区

### ● 特性 ●

市の南端に位置する南区は東京に最も近く、都内への鉄道利便性も高いため人口増加率が高く、現在、市内10区で最大の人口を有しており、若い世代の割合が多いという特徴もあります。この中で、交通利便性に優れ、本市の副都心と位置付けられている武蔵浦和駅周辺では、都市型住宅\*の供給とともに商業・業務機能の集積を目指して大規模な市街地再開発事業\*が進められており、本市の南の玄関口として拠点性が高まっています。



武蔵浦和駅西口「複合公益施設サウスピア」

## 都市基盤・環境

鉄道網としては、南北方向にJR京浜東北線、JR埼京線が、東西方向にはJR武蔵野線が走り、これらが交差する2駅（武蔵浦和駅、南浦和駅）に加え、中浦和駅があります。また、幹線道路としては、国道17号新大宮バイパス、国道17号、産業道路などがあります。全体として見ると、鉄道網による都内への利便性は高い状況にありますが、道路については東西方向の幹線道路などに未整備区間が残されているため、駅周辺をはじめ交通渋滞が目立っており、機能的な幹線道路網の確立が必要です。また、子どもや高齢者が安心して歩行できる道路環境の整備も求められています。

南区は、東京への近接性に優れていることもあって都市化が進み、それに伴って雑木林などが減少してきました。今後も引き続き、マンション建設などによる宅地化の進行が見込まれるため、公園の整備や道路の緑化に加え、民有地の緑化にも積極的に取り組み、緑を増やしていくことが必要です。同時に、生活道路\*や下水道をはじめとする身近な生活基盤の充実を図り、環境に配慮した誰もが快適に暮らせる居住空間を築いていくことが求められます。

## 地域資源

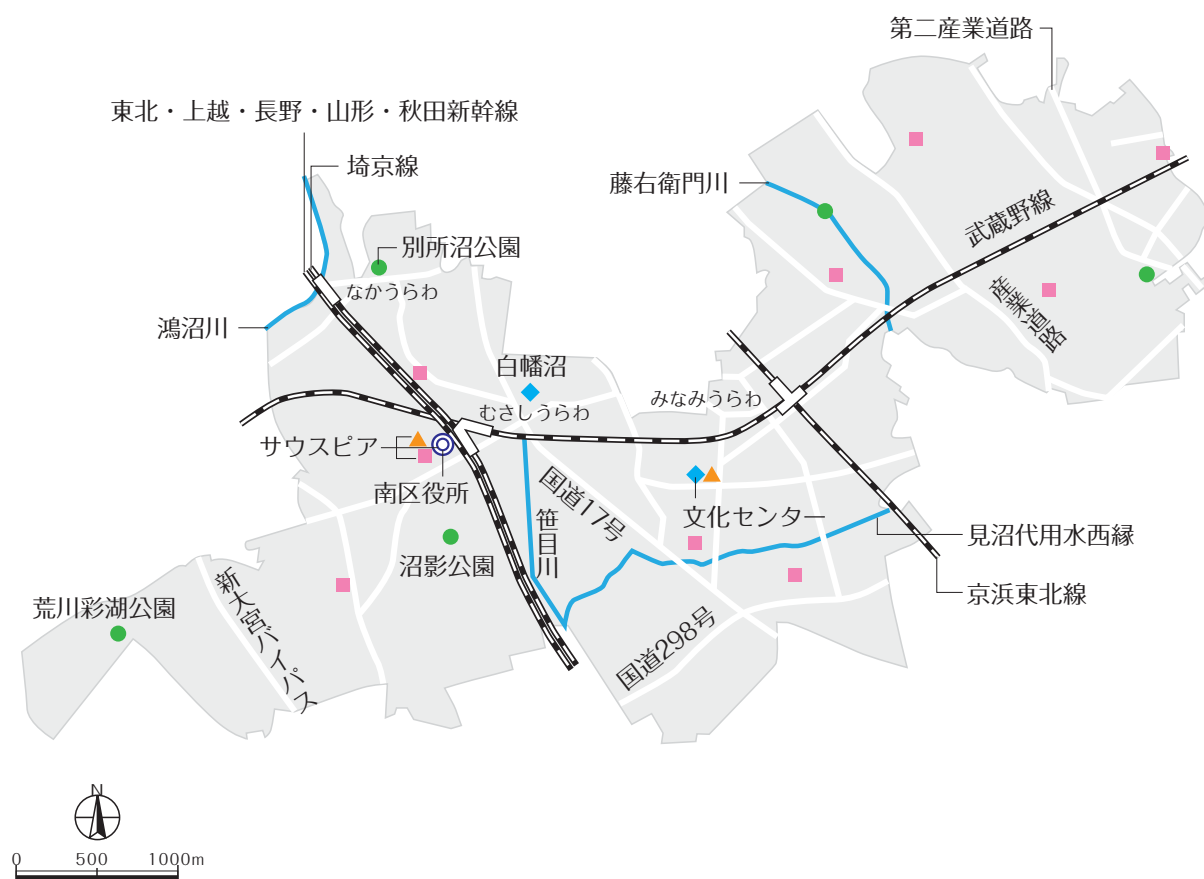
緑の空間は減少が続いていますが、東部を中心に屋敷林\*、社寺林や斜面林が残されており、今後、保全すべき箇所を明確にしながら、潤いある空間として大切にしていける必要があります。また、別所沼や白幡沼、彩湖の水辺空間、鴻沼川や笹目川、藤右衛門川、見沼代用水西縁などの河川・水路があり、水質の維持・向上とともに地域資源として有効活用していくことが求められます。

この他、武蔵浦和駅・南浦和駅周辺などに集積が進みつつある商業・業務機能を新しい地域資源として活用することが課題です。

## コミュニティ

東京への通勤者が多い南区は、若い世代を中心に人口流入が続く一方、古くから続く祭りや伝統行事が少なくなっているのが現状です。しかし、長く住み続けられるまちづくりのためには、良好なコミュニティが必要不可欠であり、新しいイベントづくりなどを通して住民相互の交流を深めるとともに、地域資源の発掘なども進め、区民が地域に愛着を感じられるまちづくりが求められます。

また、このようなまちづくりには市民と行政の協働が重要であり、情報提供を推進し、市民のネットワークづくりや市民活動を活発化していくことが課題です。



| 凡 例 |            |
|-----|------------|
| ■   | コミュニティ関連施設 |
| ▲   | 図書館        |
| ●   | 公園・スポーツ施設  |
| ◆   | その他        |
| ◎   | 区役所        |

## 南区 の 将来像

# あなたが主役 住んでよかったまちづくり

南区は、本市の南の玄関口として、交通や生活利便性の高さから、若い世代を中心に人口流入が続いています。区民ニーズが多様化する中で、生活環境の整備を進めるとともに、住民相互の交流や住民活動の活性化を図りながら、郷土愛を醸成し、長く住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

## まちづくりのポイント

### 1 人と地域が結び付く、活力あふれるまちづくり

- 区民の自主的な活動とコミュニケーションの活性化により、世代間の交流と地域社会に参加できるまちづくり
- 行政とのパートナーシップの構築を通じた協働によるまちづくり
- 誰もが楽しめる交流・活動拠点の充実によるまちづくり
- 地域のイベントがつなぐ区民のふれあいによるまちづくり



南区ふるさとふれあいフェア



浦和よさこい（浦和まつり南浦和会場）

### 2 子どもから高齢者まで元気に健康で暮らせるまちづくり

- 若い世代が多いという地域の特性を踏まえた、子育てしやすいまちづくり
- 一人ひとりが健康を維持・増進できるよう、互いに支え合うまちづくり
- 家庭、地域社会と連携した学校教育による明日の時代を担う青少年の育成
- 誰もが文化・芸術に親しめるまちづくり

### 3 安全・安心なまちづくり

- 事故や犯罪のない安全・安心なまちづくり
- 地震や水害などの災害に強いまちづくり
- 防災・減災を目指したまちづくり

### 4 自然や歴史を大切にした情緒豊かなまちづくり

- 計画的な水と緑の保全と、公共空間や民有地の一体的な緑化を推進するまちづくり
- 地域資源の発掘・活用による、地区の個性と郷土愛をはぐくむまちづくり
- 古いものと新しいものが調和したまちづくり



別所沼公園

### 5 都市環境が整った快適なまちづくり

- 地域特性を踏まえた、駅とその周辺整備 による暮らしやすいまちづくり
- 誰にもやさしい交通網の整った便利なまちづくり
- 利便性の高い安全な道路や、公共下水道などの生活基盤の整備による、快適な生活環境を備えたまちづくり
- 一人ひとりの環境への関心を高め、理解を深めることにより、省資源・省エネルギーの環境負荷\*に配慮したまちづくり



沼影公園アイススケートリンク